

## 特別講演 2

### 「成人喘息治療の最前線 ―吸入薬の使い分け―」

横浜市立みなと赤十字病院 喘息・アレルギー科部長

中村 陽一 先生

アレルギー疾患および気管支喘息は世界的に増加している。我が国の成人気管支喘息患者数も過去 10 年間で約 2 倍に増えており、関連病態も含めると少なくとも人口の 5%に達していると考えられる。

一方、喘息による死亡者数は 2000 年以前の 6 千人前後から 2010 年には 2,065 人にまで減少したとはいえ、他の医療先進国に比べるとまだ高率であり、吸入ステロイド薬の普及が不十分である可能性がある。実地医療の現場で問題となる増悪要因としては、喫煙やペット飼育の他、耳鼻咽喉科疾患、胃食道逆流症、肥満、COPD の合併、NSAID 過敏の存在などがあるが、最も重要な問題は、吸入薬の使用に関する指導不足と低アドヒアランスである。本講演では、本邦の喘息予防・管理ガイドライン(JGL) 2009 の骨子を紹介すると共に、実地医家における吸入薬の使い分けおよび成人喘息長期管理における注意点について概説する。